

新しい渡り鳥調査手法 ～夜に渡る鳥の識別とカウント～

応募者 原 星一

夜に渡る鳥が見えた！

渡り鳥は日中のみならず、夜間にも渡りを行うことは以前より認知されていたものの、実際に目で見ることは難しい。そんな中、2018 年秋に**青森県津軽半島北端の龍飛崎付近で、目視観察できる場所が見つかった！**街灯の光に加え、補助的にハンディーライトを使用することで、夜間に津軽海峡を南下してきた渡り鳥を、薄っすら見ることができる。以降、できる限りの時間を利用して観察を続けてきた。

これまでの成果

【識別、カウント方法の模索】

観察を開始した頃は、薄暗い中飛翔する鳥を目視できたところで、ほとんど種を識別することはできなかった。そこで、まずは撮影方法を試行錯誤し、写真から様々な鳥の飛翔下面での識別方法を模索した。その訓練の甲斐あって、これまで**スズメ目の鳥をメインに 80 種ほどの撮影に成功**し、識別にも慣れて、ある程度の精度でのカウント調査が可能になりつつある。2021 年秋季は初めての連続調査を試みており、8 月末から現在継続中で、11 月 10 日ごろまで天候の良い日は毎晩行う。



マミチャジナイ(上)とノゴマ(下)

【夜に渡る種が明らかに】

レーダーなどを使った調査方法では、基本的に鳥の種までは判別できないが、この方法により、**どんな種が夜に渡っているか明らかに**なってきた。例えば、ウグイス、ヤブサメ、センニュウ類、小型ツグミ類、ヤマシギなど、日中に渡りを見ることがほとんどない種は、やはり夜間に渡る姿が観察された。反対に、日中に渡りが多く見られるカラ類、ヒヨドリ、ニュウナイスズメ、カワラヒワなどは、今のところ夜の渡りを確認できていない。また、大型ツグミ類、ホオジロ類、ムクドリ類、シメ、アカゲラなど、昼夜両方とも渡る種も確認された。クイナ、フクロウ類、ヨタカなども定期的に観察される。ウズラ、サンカノゴイ、ウミスズメ、シマクイナ、カイツブリなど、驚きの種の記録もある。



エゾセンニュウ



ウズラ

調査地、方法、期間

青森県龍飛崎付近にて、北海道方面から南下してきた渡り鳥を人工光により目視し、双眼鏡またはカメラを使用し識別してカウントする。月がある時には、補助的に月をビデオ撮影し、手前を通った渡り鳥をカウントする。期間は9月上旬～11月上旬を予定。

調査目的

【データの蓄積と2021年と比較】

夜の渡り鳥を種まで特定してのカウント調査は世界的にもほぼ前例がなく、新分野の調査方法だ。そのため、まだ何が当たり前なのか分からない世界で、日々発見が続いている。今年だけでもイソヒヨドリ、カイツブリなど新たな種も追加で確認された。今後、データを蓄積する価値は大きい。また、ある程度の精度で調査できている2021年との比較も行う。



赤道儀を使用して、月を動画撮影しているところ(上)。時々高空に鳥影が映る(下)

【夜の渡りが見られる条件】

当地では、毎晩のように渡りが観察できるわけではなく、気象などの条件に左右される。これまでのところ、西寄りの風で月が出ていない夜に当たる傾向があるが、季節変化などの可能性もあるため、解明には調査年数を重ねる必要がある。月明かりの夜は付近に鳥の声や姿がなくとも、月をビデオ撮影すると高空を通過する渡り鳥の影が頻繁に映ることから、空が明るい満月前後は高度が高く、人工光では見えていない可能性がある。渡り鳥が低空を飛翔する条件が明らかとなれば、そういう夜は**風力発電の稼働を抑えるなど、バードストライク回避など保全へ向けた知見**にもなる。



長期的な展望

日中の目視によるカウント調査や鳥類標識調査(バンディング)などに加え、**新たに渡り鳥をモニタリングする手法**として有望だ。将来的には新定点を開拓し、識別や撮影方法を各地へ普及させれば、より広域的に夜の渡り鳥の動向を探れるだろう。サンコウチョウやノジコ、ブッポウソウなどなど、当地では観察できない違ったルートを通る種の知見も集まるかもしれない。

助成金の使用用途

ハンディーライトなど照明器具や撮影機材、バッテリーなどの消耗品の購入や、宿泊などの現地滞在費、交通費に充てる予定です。ご支援よろしくお願いいたします。

|